

岡山理科大学 工学部 電子工学科

岡山理科大学は昭和39年に設立され、昭和61年工学部が発足して理学部と工学部とからなる複合学部の大学となりました。また、昭和62年4月には大学院理学研究科博士課程応用数学専攻が認可され、大学院理学研究科として材質専攻とシステム科学専攻とを含む3専攻を擁する博士課程をもつに至っております。しかしながら、本学は理学部で出発した関係上、OR専門課程はなくて、理学部の応用数学科および工学部の電子工学科の中でその関連科目を教育している程度です。

応用数学科の中には数学専攻と情報専攻とがあり、統計学、情報処理言語、数理統計、数理計画法、グラフ理論、シミュレーション、計算機数学、確率論、時系列分析、多変量解析、経営通論、会計学、システム理論、データ構造等の教育を実施しております。一方、電子工学科の方は電子工学専攻と情報・システム専攻とがあり、応用数学、情報理論、システム工学、計算機数学、情報システム論、ソフトウェア工学、計算機言語、電子計算機等の各関連科目を教育しております。

研究内容からみますと、応用数学教室の方では統計処

理、多変量解析、グラフ理論、乱数の研究、数値計算、実験計画等の研究者がおりまして、OR学会所属会員としては、山本純恭教授、一村稔教授があります。電子工学教室ではシステム工学、数理計画、ソフトウェアの信頼性につき研究を実施しており、成久洋之教授、山田茂講師がOR学会に所属し、卒業研究並びに大学院の研究テーマを前記分野の内容で実施しております。その他、本学の情報処理センターには尾高好政助手および植松康祐助手がおり、統計処理および取替問題の研究に従事しており、いずれもOR学会員です。

以上記述致した通り、本学の場合、OR学科そのものは存在しませんが、その関連分野の研究を実施している関係上、今後は情報工学、システム工学関連の中でOR教育の内容を充実させる計画でございます。工学部は発足したばかりで、完成年次まではカリキュラムの変更は不可能ですが、情報およびシステム分野の教育研究に対する社会のニーズはますます増加していますので、当大学もその方向での充実を企図致しております。

(成久洋之)

学習院大学 経済学部

学習院大学は山手線目白駅下車30秒のところに通門があり、立地は非常に恵まれている。ただし、正門までは5分程度歩かねばならない。山手線の内側にある大学の中ではトップクラスのキャンパスの広さを持ち、緑も豊かで教育環境とすれば申し分ない。学部は経済学部、法学部、理学部、文学部の4つがある。学生気質は徐々に変わりつつあるとはいえ、概しておっとり型といえるかも知れない。

経済学部の前身は昭和27年に政文学部が廃止され、政経学部と文学部に分離したところから始まる。その後昭和39年に政経学部が経済学部と法学部に分かれ、現在の

学部の形となった。なお昭和49年には経済学科が設置され、経済学科と経営学科の2学科制を採るようになった。現在はその体制を維持している。大学院は経営学科が現在修士課程（前期課程という）と博士課程（後期課程という）をかかえ、経済学科が修士課程のみとなっている。最近では、大学院進学希望者も増加しつつあり、また海外からの志願者も増えつつある。

経営科学またはOR関係は経営学科の科目となっております。その担当者（小山昭雄教授、森田道也教授）はいずれも経営学科所属である。科目としては、他大学の人文系学部と比較して多いと思われる。まず、経済数学（両